

# 好きなことを進路に選ぼう！

山本 真紀

関西福祉科学大学 教育学部・教授

## ＜仕事の内容とやりがい＞

大学卒業後、短期大学の助手となり、遺伝子の可視化技術(蛍光 in situハイブリダイゼーション法)によるコムギ染色体上の遺伝子マッピングに世界で初めて成功し、コムギの系統進化の研究で京都大学博士(農学)の学位を取得しました。米国、韓国、インドへの渡航研究経験は、自分の考え方に大きな影響を受けました。現在はラン科植物のエピジェネティクス研究を行う傍ら、科研費の「ひらめき☆ときめきサイエンス」プログラムを積極的に進めるなど、研究経験を活かして自然科学の楽しさを子ども達に知ってもらいたいと思っています。

## ＜進路決定のきっかけ＞

大学3年生の時、指導教官の「植物研究から世界の食糧問題に貢献したい」というお言葉に、研究は素晴らしいと感銘を受けたことと、大好きな顕微鏡が使えるということで遺伝学研究室に所属しました。研究材料はコムギでした。奇しくも高校の時に、遺伝を熱心に教わった生物の先生から珍しいタルホコムギを見せてもらっており、これも原体験となっていたのかもしれませんが。子どもの頃から植物や顕微鏡に関心を持っていたのは祖父の影響です。職場で困難に直面しても、好きな仕事が常に支えとなってくれました。

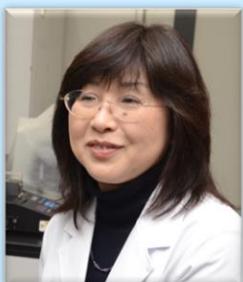
研究第一の生活を30年余り続けてきましたので、両親には随分迷惑をかけたと思いますが、好きなことをさせてもらい心から感謝しています。最も苦慮したのは大学の仕事と研究の両立です。学園内の短大で2回、同学園内の大学へ移籍後も2回の異動があり、全く異なる分野を転々としましたが、植物染色体研究だけは一貫して続けてきました。研究室の引っ越しと実験室の大移動の度に、自分の研究を継続できる環境を整えるために非常に多くの時間と労力を失いましたが、それを上回る貴重な知識や経験が得られました。

好きなことに取り組んでください。ある女子学生さんから、本当は生物を勉強したかったのに男子の方が優れていると思い込んで全く別の分野に進んでしまい、やはりやりたいことと違ったと聞き、昨年の夏に小学生を対象として実施した「ひらめき☆ときめきサイエンス」の参加者は女子の方が多く、のびのびと目を輝かせて学んでいた様子が目に浮かびました。好きなことをやるためには、周囲の圧力もはねのけるパワーと知恵が湧き出てきます。その芽をつぶすような選択をしないですむ社会作りが必要であると切実に思います。

## ＜仕事と家庭のバランス＞

## ＜進路選択に対してのメッセージ＞

### ＜プロフィール＞



兵庫県立伊丹高校 → 大阪教育大学教育学部小学校課程理科専攻(1988年卒業) → 関西女子短期大学保健科生命科学コース助手、米国カンサス州立大学農学部植物病理学教室客員研究員(1990年) → 京都大学博士(農学)(論博、1994年取得) → 関西女子短期大学講師 → 同助教授 → 関西福祉科学大学健康福祉学部助教授 → 同学部教授 → 同大学保健医療学部教授 → 現職